

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校 千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活ができるよう、全職員が理念を念頭におき実施につなげている。朝礼や職員会議などで職員に周知徹底をし、地域に開かれた施設づくりに全員で取り組んでいる。	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活ができるよう、全職員が理念を念頭におき実施につなげている。朝礼や職員会議などで職員に周知徹底をし、地域に開かれた施設づくりに全員で取り組んでいる。	法人の理念「尊厳と安心」を基に「一日一日を大切に過ごしていただく」の事業所独自の理念がある。職員は「利用者がここで良かった」と思ってもらえることを目指し、笑顔で日々を過ごせるよう常に心掛けている。理念を毎日の朝礼や職員会議の都度、職員間で共有し日常の支援の中で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会加入し、回覧板や地域住民からの訪問によって行事の情報を頂き行事への積極的参加、地域ボランティアの受け入れを行い交流を図っている。地域のお店の利用など社会資源活用もしている。定期的に地域住民が庭の手入れを実施してくれる。	自治会加入し、回覧板や地域住民からの訪問によって行事の情報を頂き行事への積極的参加、地域ボランティアの受け入れを行い交流を図っている。地域のお店の利用など社会資源活用もしている。定期的に地域住民が庭の手入れを実施してくれる。	自治会に加入。利用者は近隣の方もいるため地域活動・行事の情報を得やすく共に暮らす地域の一人として運動会・文化祭への作品出展・夏祭り、有価物回収・公園遊具のペンキ塗りの奉仕活動などにも参加している。地域住民は自主的に事業所の畑や庭の手入れを行ない野菜や花を植えてくれる。事業所と地域の相互関係が密にできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への積極的参加や幼稚園・小学校の訪問により認知症の方との関わりの中で理解を求めている。また運営推進会議の場では認知症の方に対する理解や共存がこの地域で住民の理解の下生活できるよう協力を依頼している。	地域行事への積極的参加や幼稚園・小学校の訪問により認知症の方との関わりの中で理解を求めている。また運営推進会議の場では認知症の方に対する理解や共存がこの地域で住民の理解の下生活できるよう協力を依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や実施行事の報告、外部評価の結果報告や災害時の対応など課題としてあげ、意見を頂いている。ご家族にも積極的に意見を言っていたるように全家族に案内を送付して、会議への参加をお願いしている。	利用者の現状や実施行事の報告、外部評価の結果報告や災害時の対応など課題としてあげ、意見を頂いている。ご家族にも積極的に意見を言っていたるように全家族に案内を送付して、会議への参加をお願いしている。	2か月に1回開催。事業所から利用者の日常の様子や行事内容の報告がある。毎回議題を設定し活発な意見交換が行われるように工夫をしている。今回は家族が関心を持つ「看取り」を在宅医療医師を講師に迎え事例を基に研修した。とても有意義な話し合いとなり、家族の安心にも繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	対応困難事例や制度、人員基準等不明な点は保険者へ連絡を取りアドバイスを頂いている。また地域包括支援には運営推進会議に出席してもらい意見やアドバイス、情報提供をして頂いている。介護相談員についても月1回訪問して下さっている。	対応困難事例や制度、人員基準等不明な点は保険者へ連絡を取りアドバイスを頂いている。また地域包括支援には運営推進会議に出席してもらい意見やアドバイス、情報提供をして頂いている。介護相談員についても月1回訪問して下さっている。	運営推進会議議事録の報告、人員基準や利用者への医療対応の相談をする等、日頃から事業所の取り組みや現状を伝え相談・アドバイスをもらえる関係である。また、市と福祉避難所の協定を結び相互に協力し合う関係も築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束防止委員会を開催し、全職員が身体拘束について正しく理解をし、どういった行為が身体拘束にあたるのか職員に対して周知徹底をしている。参考資料や情報なども随時閲覧などで回し、各スタッフに身体拘束の意識付けをしている。	3ヶ月に1回身体拘束防止委員会を開催し、全職員が身体拘束について正しく理解をし、どういった行為が身体拘束にあたるのか職員に対して周知徹底をしている。参考資料や情報なども随時閲覧などで回し、各スタッフに身体拘束の意識付けをしている。	委員会を立ち上げ、委員主体で3か月に1回研修会を行ない、そこでの内容を全職員に伝えている。ヒヤリハット・転倒は職員一人ひとりが声を掛け合い一緒に対応するなど工夫している。スピーチロックや見えない部分にも力を入れ、言い換えの言葉を使うなど尊厳に対する理解度を深めている。利用者の不穏行動についても原因や背景に配慮した対応へと繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回身体拘束防止委員会を開催し、利用者の尊厳を大切にし、身体的虐待はもちろんのこと、言葉の暴力やネグレクト、グレーゾーンについても注意をするよう職員に促している。また虐待を行わない為のスタッフの協力、連絡体制を徹底している。	3ヶ月に1回身体拘束防止委員会を開催し、利用者の尊厳を大切にし、身体的虐待はもちろんのこと、言葉の暴力やネグレクト、グレーゾーンについても注意をするよう職員に促している。また虐待を行わない為のスタッフの協力、連絡体制を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している方はいないが、今後の対応として日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めていく。	現在は成年後見制度を利用している方はいないが、今後の対応として日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書をもとに苦情解決窓口の説明や金銭管理、その他の必要事項を利用者、家族に出来る限り分かりやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不安な点についても必ず確認を行っている。	契約書、重要事項説明書をもとに苦情解決窓口の説明や金銭管理、その他の必要事項を利用者、家族に出来る限り分かりやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不安な点についても必ず確認を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校 千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や面会時の会話、家族とのメール、介護相談員からの情報などを利用し利用者やご家族ができる限り意見や要望などを言いやすい環境づくりを行い、要望があった際には反映できるように努力をしている。また意見箱の設置も行っている。	運営推進会議の場や面会時の会話、家族とのメール、介護相談員からの情報などを利用し利用者やご家族ができる限り意見や要望などを言いやすい環境づくりを行い、要望があった際には反映できるように努力をしている。また意見箱の設置も行っている。	面会時やプラン更新時に要望などを汲み取っている。日頃から話しやすい関係を築いており前向きな意見が多い。家族の関心の高かった「看取り」については、在宅医療医師を講師に研修会を開催するなど家族の意見や要望を反映している。また遠方に住む家族や利用者の体調変化の際などは、メールを活用し状況を迅速に伝えることで安心や信頼感に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議、各委員会や業務の中で手すりの設置や行事の実施等要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境づくりに努めている。年に1度個別面談の時間を設け意見等も聞いている。	職員会議やユニット会議、各委員会や業務の中で手すりの設置や行事の実施等要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境づくりに努めている。年に1度個別面談の時間を設け意見等も聞いている。	月1回の職員会議・2～3か月に1回のユニット会議時、また必要時に意見や提案を管理者に伝えている。個別面談は管理者が年1回行い勤務形態や体調、人間関係などきめ細かく対応している。法人が行うストレスチェック・健康診断も参考にしている。日々のケアの中の職員意見・提案はすぐに反映し、浴室のリフト設置など利用者・職員の負担軽減に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの休日や勤務時間の希望などを考慮し勤務表を作成している。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。スタッフが働きやすい環境づくりに管理者はじめ各スタッフで取り組んでいる。	各スタッフの休日や勤務時間の希望などを考慮し勤務表を作成している。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。スタッフが働きやすい環境づくりに管理者はじめ各スタッフで取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では月1回の職員研修と年6回の内部研修を開催。事業所でも勉強会を実施し、技術や知識が習得できるよう機会を設けている。業務内のOJTを行い技術向上を支援している。外部の各研修にも参加してもらっている。	法人では月1回の職員研修と年6回の内部研修を開催。事業所でも勉強会を実施し、技術や知識が習得できるよう機会を設けている。業務内のOJTを行い技術向上を支援している。外部の各研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの見学や研修の受け入れ等を行い相互に質の向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも見学、交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供も頂いている。	他施設からの見学や研修の受け入れ等を行い相互に質の向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも見学、交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供も頂いている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に努めている。ご家族にも協力してもらい過去の習慣等の情報を頂き、個別対応している。生活の中で見えてくる隠れたニーズも見逃さないようにしている。	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に努めている。ご家族にも協力してもらい過去の習慣等の情報を頂き、個別対応している。生活の中で見えてくる隠れたニーズも見逃さないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き介護に反映している。入所後も面会や来訪の際など関わりを持っている。また月に1度事業所便りと近況報告を兼ねた直筆の手紙を郵送している。	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き介護に反映している。入所後も面会や来訪の際など関わりを持っている。また月に1度事業所便りと近況報告を兼ねた直筆の手紙を郵送している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には本人とご家族の主訴は何かを見極め、本人がどういった生活を送りたいか、家族がどういった生活を送ってほしいかを聞き、要望や思いに沿えるよう努めている。また他事業所のサービスも紹介している。	サービス開始時には本人とご家族の主訴は何かを見極め、本人がどういった生活を送りたいか、家族がどういった生活を送ってほしいかを聞き、要望や思いに沿えるよう努めている。また他事業所のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事活動や軽作業は積極的に行ってもらっている。料理や片付け、洗濯や掃除まで出来る範囲で行ってもらい、認知症があろうと人として 当たり前共存できるように支援している。	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事活動や軽作業は積極的に行ってもらっている。料理や片付け、洗濯や掃除まで出来る範囲で行ってもらい、認知症があろうと人として 当たり前共存できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	めだかの学校 千塚公園西	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の安定した生活は家族の支えや協力を得なければ実現しないという事を家族に伝え、面会や行事への参加、運営推進会議への出席等、関わりを多く持ち協力を依頼している。施設の美化作業も協力してもらっている。	利用者の安定した生活は家族の支えや協力を得なければ実現しないという事を家族に伝え、面会や行事への参加、運営推進会議への出席等、関わりを多く持ち協力を依頼している。施設の美化作業も協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前通っていた病院やお店の利用を家族に依頼したり、家の事が心配な方は職員と一緒に自宅の様子を見に行ったりと個別に馴染みの場所等の関係が寸断されてしまわないよう個別で支援している。自宅へ外出し近所の方との繋がりも継続している。	以前通っていた病院やお店の利用を家族に依頼したり、家の事が心配な方は職員と一緒に自宅の様子を見に行ったりと個別に馴染みの場所等の関係が寸断されてしまわないよう個別で支援している。自宅へ外出し近所の方との繋がりも継続している。	入居時の利用者家族からの情報や日頃の会話などから生活背景(センター方式使用)を確認し、その後の情報も個々のファイルに記録し必要な支援に繋げている。床屋・美容院・女子会・無尽・自宅訪問・外食・馴染みの店での買い物など、馴染みの関係を把握し支援している。これまでの馴染みの関係性が継続できるような個別対応の機会が多くなる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事等を通じ利用者同士の会話が増える様職員がパイプ役となり支援している。利用者が孤立しないようグループ外出等個々が楽しめる行事を企画。フロアや居室で利用者同士が会話できる環境整備を行っている。	日常生活や行事等を通じ利用者同士の会話が増える様職員がパイプ役となり支援している。利用者が孤立しないようグループ外出等個々が楽しめる行事を企画。フロアや居室で利用者同士が会話できる環境整備を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により契約解除となった場合でも、希望があれば退院後の行先と一緒に探し、利用者、家族が困らないように支援をしている。また、いかなる場合の退所であっても随時相談を受けている事を退所時に必ず伝え、実際に定期的に来所されている。	入院により契約解除となった場合でも、希望があれば退院後の行先と一緒に探し、利用者、家族が困らないように支援をしている。また、いかなる場合の退所であっても随時相談を受けている事を退所時に必ず伝え、実際に定期的に来所されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのような生活を送りたいか希望を聞き、生活歴やバックグラウンドの把握、今現在の本人の思いや意思を出来る限り汲みとる事が出来る様関わりを持っている。何事にも利用者本位の考え方のもと支援にあたっている。	本人がどのような生活を送りたいか希望を聞き、生活歴やバックグラウンドの把握、今現在の本人の思いや意思を出来る限り汲みとる事が出来る様関わりを持っている。何事にも利用者本位の考え方のもと支援にあたっている。	職員は本人がどのように暮らしたいのかを汲み取る努力をし、その時々表情の変化や日常生活の中での言葉からの気づきを個人ファイルに記録し職員全体で共有している。本人の思いに添えるよう、事業所だけでなく家族の協力を働きかけるなどして、その方に合わせた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や生活の中で見えてくるその人の特性やその人らしい生活の仕方等の把握に努め、スタッフ間で共有できるように会議等で周知している。また、これまで利用していたサービス事業所から情報を頂く事もある。	入所前の生活歴や生活の中で見えてくるその人の特性やその人らしい生活の仕方等の把握に努め、スタッフ間で共有できるように会議等で周知している。また、これまで利用していたサービス事業所から情報を頂く事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハを兼ねて家事作業は利用者と共に進めており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に努めている。また継続して行う事でその日の状態や出来る事、出来ない事の把握ができ、都度職員間で情報の共有を行っている。	生活リハを兼ねて家事作業は利用者と共に進めており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に努めている。また継続して行う事でその日の状態や出来る事、出来ない事の把握ができ、都度職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に本人・家族に希望を聞きプランに反映させている。処遇会議でも個々に話し合いを行い、また処遇会議以外でも日々気づいたことは各ユニットで話し合いを持ち、計画に反映できるように努めている。	計画作成時に本人・家族に希望を聞きプランに反映させている。処遇会議でも個々に話し合いを行い、また処遇会議以外でも日々気づいたことは各ユニットで話し合いを持ち、計画に反映できるように努めている。	センター方式を活用し入居時本人・家族からアセスメントし希望や不安を聞きプランに反映させている。概ね6か月の中で見直しを行い2か月毎にモニタリングし、日々気づいたことはユニットごとに話し合っている。受診時の情報や医師・看護師からの助言もプランに反映し現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報共有できるように工夫している。処遇会議の内容を含め、現場からの声を大切にし、その人にとっての最善の方法や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報共有できるように工夫している。処遇会議の内容を含め、現場からの声を大切にし、その人にとっての最善の方法や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校 千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に抱えているニーズが異なる為、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスは臨機応変に対応している。受診介助の代行や個別の買い物、外食等、その時々生じる個別のニーズに対して都度対応している。	個別に抱えているニーズが異なる為、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスは臨機応変に対応している。受診介助の代行や個別の買い物、外食等、その時々生じる個別のニーズに対して都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の地域資源を把握し、入所する事により地域との繋がりが寸断されず、継続ができるように支援している。自宅の近所付き合いや馴染みの店等出来る範囲で訪れたり、面会に来て頂いたり継続できるように支援している。	個人の地域資源を把握し、入所する事により地域との繋がりが寸断されず、継続ができるように支援している。自宅の近所付き合いや馴染みの店等出来る範囲で訪れたり、面会に来て頂いたり継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、家族に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望を聞いている。法人内にもクリニックがあることを伝え希望があった方については主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。主治医によっては往診にも対応してくれている。	入所時にご本人、家族に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望を聞いている。法人内にもクリニックがあることを伝え希望があった方については主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。主治医によっては往診にも対応してくれている。	入居時、本人・家族の希望を聞いている。現在約2/3の方がこれまでのかかりつけ医にて受診し、家族が受診支援している。家族には情報を書面で渡し受診後の様子を口頭で聞き取りファイルに記録している。在宅医療の医師の往診にて受診している利用者もいる。歯科医師の往診も週1回ある。また、非常勤の看護師がいる事は本人・家族・職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員には利用者のちょっとした変化に気づける様日常の関りの中から利用者自身を観察する様指導している。気づいた点は随時管理者、看護師に報告・相談をし必要な場合は適切に医療が受けられるように支援している。	職員には利用者のちょっとした変化に気づける様日常の関りの中から利用者自身を観察する様指導している。気づいた点は随時管理者、看護師に報告・相談をし必要な場合は適切に医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は情報提供を病院に行い入院中は病院・家族と連携を取り合い、退院時にもスムーズに退院できるように努めている。また、退院時には医療面だけでなく必要に応じてPTやOT等からも情報を頂き、担当者会議も行うようにしている。	利用者が入院した際は情報提供を病院に行い入院中は病院・家族と連携を取り合い、退院時にもスムーズに退院できるように努めている。また、退院時には医療面だけでなく必要に応じてPTやOT等からも情報を頂き、担当者会議も行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族や本人の意向を聞くとともに、法人内の特養や療養型とも連携を取っている事を説明し、広い選択肢の中から方向性を決めてもらえるようにしている。看取りについても希望があればグループホームで可能な限り対応は可能。利用者、家族、主治医、訪問看護、職員間での連携をとっている。	入所時に家族や本人の意向を聞くとともに、法人内の特養や療養型とも連携を取っている事を説明し、広い選択肢の中から方向性を決めてもらえるようにしている。看取りについても希望があればグループホームで可能な限り対応は可能。利用者、家族、主治医、訪問看護、職員間での連携をとっている。	入居時、本人や家族の意向を聞き、グループホームでの看取りの実際を家族に伝えている。今まで3名の看取りを行っており、マニュアルも作成し、看取りケアの研修も行い医療関係者との連携体制も整っている。看取り支援の後に、家族アンケートに答えてもらい、その中から家族の気持ちに添って精神面をフォローしている。職員の精神面にも配慮し、家族だけでなく管理者も泊まり体制を整えて看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、救急法と年間2回の研修を実施し各スタッフのスキルアップに努めている。会議でも緊急時の事例や事故発生時の対処方法を徹底している。事故を未然に防ぐ為にヒヤリ・ハット記入を行い委員会話し合い、職員全員に周知徹底している。	緊急時の対応、救急法と年間2回の研修を実施し各スタッフのスキルアップに努めている。会議でも緊急時の事例や事故発生時の対処方法を徹底している。事故を未然に防ぐ為にヒヤリ・ハット記入を行い委員会話し合い、職員全員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年間6回の避難訓練を実施し、夜間想定、地震、火災、水害、管理者不在時等の訓練を行っている。また地域の方にも災害時の協力要請しており地域の避難訓練にも参加している。防災研修や水消火器を使った訓練等も実施している。	年間6回の避難訓練を実施し、夜間想定、地震、火災、水害、管理者不在時等の訓練を行っている。また地域の方にも災害時の協力要請しており地域の避難訓練にも参加している。防災研修や水消火器を使った訓練等も実施している。	2か月に1回、昼・夜間・管理者不在時などそれぞれの状況を想定し訓練を行っている。訓練は地域住民の参加を得ており、また、地域の訓練にも参加し放水訓練体験、避難時の見守りなど、消防署・職員・地域の方のそれぞれの役割も決めている。災害用備品の準備やヘルメットなどの用意もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が人生の先輩であるという気持ちで、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。業務中でのOJTや研修、身体拘束廃止委員会、会議でも声かけや接し方等の指導を職員に対して行い、職員同士が注意し合う関係性を築いている。	利用者が人生の先輩であるという気持ちで、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。業務中でのOJTや研修、身体拘束廃止委員会、会議でも声かけや接し方等の指導を職員に対して行い、職員同士が注意し合う関係性を築いている。	年5回法人として「福祉の基本」の研修会がある。その他毎月持ち回りで実践研修(ベッドメイキング・トランスファー・オムツ交換)やプライバシーに配慮した声掛け(トイレ誘導・入浴)や人格の尊重など内部研修を行っている。言葉遣いは毎日の業務の中で職員同士が注意し合い、お互いに研鑽し合う体制・関係性ができている。個人情報に関わるものは厳重に保管している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校 千塚公園西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の気持ちを大切に利用者が遠慮せず話せる雰囲気作りに努め、希望を聞く際は人によって質問方法や声かけを工夫している。生活の中の選択時には自己決定できるよう、してあげる介護から待つ介護を心掛けている。	個人の気持ちを大切に利用者が遠慮せず話せる雰囲気作りに努め、希望を聞く際は人によって質問方法や声かけを工夫している。生活の中の選択時には自己決定できるよう、してあげる介護から待つ介護を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護するに当たり、まずその人の事をよく知り、よく見る事を心がけている。その中で昔から馴染みのある事や生活のリズムを個々に把握し処遇を行っている。行事の実施も利用者に希望を聞きながら行先や内容を検討、実施している。	介護するに当たり、まずその人の事をよく知り、よく見る事を心がけている。その中で昔から馴染みのある事や生活のリズムを個々に把握し処遇を行っている。行事の実施も利用者に希望を聞きながら行先や内容を検討、実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら行事の際や外出の際にお化粧をさせて頂いている。あくまでも本人自身のおしゃれが出来るように支援している。日々の身だしなみについても衣類の選択等できる範囲で自身で行ってもらっている。	本人の希望を聞きながら行事の際や外出の際にお化粧をさせて頂いている。あくまでも本人自身のおしゃれが出来るように支援している。日々の身だしなみについても衣類の選択等できる範囲で自身で行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等は一緒にやっている。ほうとうや太巻き作り、団子やおはぎ作り等昔ながらの料理やおやつも一緒に手作りしている。自由メニューやお好み外食、スイーツ外出も希望を聞きながら実施している。	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等は一緒にやっている。ほうとうや太巻き作り、団子やおはぎ作り等昔ながらの料理やおやつも一緒に手作りしている。自由メニューやお好み外食、スイーツ外出も希望を聞きながら実施している。	法人の管理栄養士が献立を立て、週2回利用者の希望を取り入れている。近所からいたく野菜や果物、畑で収穫した野菜を使い柔軟にアレンジしている。利用者と一緒にできることを一緒に、1階と2階で分担して作っている。食材は業者を利用し、足りない物は都度利用者と地域の店に買いに行き、月1回は外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事・おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックも行っておりバランスよく栄養が取れるように努めている。また体重の増減も指標の一つとしており、嗜好品の提供等その時々に応じた支援を行っている。	個々の状態に合わせた食事・おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックも行っておりバランスよく栄養が取れるように努めている。また体重の増減も指標の一つとしており、嗜好品の提供等その時々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず実施し、個別に介助する方や自身で実施できる方の把握、義歯や口腔内の状態を個別に把握している。歯科訪問診療時に歯磨きのアドバイスを頂いたり、個々に応じた歯ブラシの選択、拭き上げ等清潔保持できるよう支援している。	食後の口腔ケアは必ず実施し、個別に介助する方や自身で実施できる方の把握、義歯や口腔内の状態を個別に把握している。歯科訪問診療時に歯磨きのアドバイスを頂いたり、個々に応じた歯ブラシの選択、拭き上げ等清潔保持できるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートを用いて個別に誘導している。リハビリやパットの使用も見直しを行い、トイレで排泄ができるという方にとつての排泄の自立を目指し支援している。実際にオムツから布パンツに変更できた方もいる。	個別の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートを用いて個別に誘導している。リハビリやパットの使用も見直しを行い、トイレで排泄ができるという方にとつての排泄の自立を目指し支援している。実際にオムツから布パンツに変更できた方もいる。	排泄チェック表を記録し、一人ひとりのパターンに合った支援を行っている。今まで5名の利用者が布パンツに変わっている。夜間にポータブルトイレを使用する利用者も含め、排泄用品の見直しや検討を行なっている。リハビリパンツやパットの使用量が減少したことを家族や事業所全体でも実感している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関してはチェックシートで個別チェックし、その方の排便のリズムの把握やトイレに座る習慣に努めている。出来る範囲で下剤に頼るのではなく、水分量や食事内容の改善、乳製品の活用、日中の活動量を増やす等の対応を行っている。	排便に関してはチェックシートで個別チェックし、その方の排便のリズムの把握やトイレに座る習慣に努めている。出来る範囲で下剤に頼るのではなく、水分量や食事内容の改善、乳製品の活用、日中の活動量を増やす等の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はほぼ毎日実施している。出来る範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。個浴にて一番風呂が良い方や最後にゆっくり入りたい方など個々に応じた個別の支援を実施している。	入浴はほぼ毎日実施している。出来る範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。個浴にて一番風呂が良い方や最後にゆっくり入りたい方など個々に応じた個別の支援を実施している。	何時でも入浴できるよう毎日入浴の準備をし、一人ひとりの希望に添った支援に努めている。入浴を嫌がる利用者には声かけのタイミング、支援方法を工夫し週2~3回入浴している。浴槽設置式リフトやシャワーキャリーを備えたり、同性介助に必ず利用者に合わせて支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	めだかの学校 千塚公園西	外部評価	
自己	外部	自己評価(実践状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		ユニット名(1階)	ユニット名(2階)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動量を増やし夜間の睡眠につなげられる様に努めている。また体調や状態に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。眠剤を使用している方もいるがなるべく内服に頼らないで眠れるように支援している。	日中は出来るだけ活動量を増やし夜間の睡眠につなげられる様に努めている。また体調や状態に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。眠剤を使用している方もいるがなるべく内服に頼らないで眠れるように支援していく。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に内服薬の情報書が綴っており、副作用や用法、用量等をすぐに確認できるようにしている。また受診の際には内服による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記入し職員全体で情報共有し把握に努めている。	個別の記録に内服薬の情報書が綴っており、副作用や用法、用量等をすぐに確認できるようにしている。また受診の際には内服による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記入し職員全体で情報共有し把握に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や生活歴などを把握し、ピアノ、料理、畑仕事、編み物、日記、木工等その人にとって楽しみとなっている事が日常生活の中で自然に出来る様支援している。また日常生活の中で気分転換としても活用している。	その人の趣味や生活歴などを把握し、ピアノ、料理、畑仕事、編み物、日記、木工等その人にとって楽しみとなっている事が日常生活の中で自然に出来る様支援している。また日常生活の中で気分転換としても活用している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物や住んでいた地域への外出等している。ご家族と外食など外に出る機会もある。日常生活でも散歩や買物の外出を行い、個別の外出希望にも出来る範囲で対応している。ご家族にも外出できる機会を作ってもらえるよう依頼している。	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物や住んでいた地域への外出等している。ご家族と外食など外に出る機会もある。日常生活でも散歩や買物の外出を行い、個別の外出希望にも出来る範囲で対応している。ご家族にも外出できる機会を作ってもらえるよう依頼している。	近くの公園への散歩や買い物、事業所に行く等、日常的に外出支援が行われ、気分転換や外気浴の機会が地域の方との交流の場にもなっている。月1回の外出は美術館・いちご狩り・紅葉見物・外食・大型店のショッピング等、利用者の希望するところにユニットごとに出掛けそれぞれが楽しんでいる。個別対応の外出支援(墓参り・無尽・自宅に帰る・個別買い物等)も家族の協力を得て、柔軟に行われている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もいらっしゃる。買い物や外出時のお金を使う際は支障がない限り自身で支払いができる様に支援している。自己管理できない方に関しては施設にて小遣い管理している。	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もいらっしゃる。買い物や外出時のお金を使う際は支障がない限り自身で支払いができる様に支援している。自己管理できない方に関しては施設にて小遣い管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては利用者の友人や家族に対し希望があった場合支援をしている。手紙も月に一度、本人に話を聞きながら家族に手紙を送っている。職員が代筆する方もいるが直筆にて書ける方は自身で書いてもらっている。	電話に関しては利用者の友人や家族に対し希望があった場合支援をしている。手紙も月に一度、本人に話を聞きながら家族に手紙を送っている。職員が代筆する方もいるが直筆にて書ける方は自身で書いてもらっている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品や、季節の花、飾り、暖房器具を置くことによって居心地良く、快適に生活が出来るように配慮している。また庭や畑を見て季節を感じてもらえる様に花や野菜を植え、いつでも外が見えるよう窓際に椅子を置いている。居室やトイレは手作りの張り紙を貼り工夫している。	利用者の作品や、季節の花、飾り、暖房器具を置くことによって居心地良く、快適に生活が出来るように配慮している。また庭や畑を見て季節を感じてもらえる様に花や野菜を植え、いつでも外が見えるよう窓際に椅子を置いている。居室やトイレは手作りの張り紙を貼り工夫している。	併設の認知症対応型デイサービスの空間は利用者が自由に行き来でき、ソファやテーブル椅子・ピアノが置かれ、畑や庭を眺める等ゆったりと寛げる場となっている。また、一人になりたい時や休みたい時、仲良い同志がおしゃべりを楽しむことができるようとの配慮でもある。また、玄関さきにも椅子とテーブルが用意され屋外で日向ぼっこやイベントができる場となっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや椅子を多めに置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえよう様配置している。1階と2階のフロアをうまく使いながら一人で過ごせる場所や気の合う仲間と話し出来る家具の配置を行い空間作りに努めている。	フロアにソファや椅子を多めに置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえよう様配置している。1階と2階のフロアをうまく使いながら一人で過ごせる場所や気の合う仲間と話し出来る家具の配置を行い空間作りに努めている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具を持参頂くようお願いし、布団やまくら、筆筒、人形など持ち込まれる方もいる。また家族の写真を貼るなどしてその人にとって居心地の良い空間とできるように配慮している。	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具を持参頂くようお願いし、布団やまくら、筆筒、人形など持ち込まれる方もいる。また家族の写真を貼るなどしてその人にとって居心地の良い空間とできるように配慮している。	居室は木製のベッド・クーラー・吊戸棚・蛍光灯・カーテンが備え付けられている。できる限り今まで使用していたものを持ってきてもらい、馴染みの部屋に近づけるよう掛けられている。仏壇、習字、写真、人形、家具など思い出の品が配置され、その人らしく落ち着いて暮らせる居心地の良い居室となっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内での家事や軽作業は出来る範囲で利用者と一緒に、ADLだけに目を向けるのではなくADLがどの程度出来るのかを把握し、安全の確認を行ったうえでその人なりの自立を目指して支援を行っている。	事業所内での家事や軽作業は出来る範囲で利用者と一緒に、ADLだけに目を向けるのではなくADLがどの程度出来るのかを把握し、安全の確認を行ったうえでその人なりの自立を目指して支援を行っている。	